

桐生西ロータリークラブ週報

2010-11年度RIテーマ

レイ・クリンギンスミスRI会長 地域を育み、大陸をつなぐ



例会日時 毎週金曜日 12:30～13:30
 例会場・事務所 桐生市堤町3-5-23 桐生プリオパレス
 TEL 0277-22-9155 ・ FAX 0277-44-2777
 Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp URL http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi
 会長 片貝 良一 クラブ会報・雑誌委員長 岡田 善孝
 幹事 近藤 幸利 委員 山岸 泰男・松戸 義澄

No. 1793

2010年12月24日発行

第1905例会 (2010・12・17) 報告

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1. 食 事 | 6. 幹事報告 |
| 2. 点 鐘 | 7. 委員会報告 |
| 3. ロータリーソング | 8. 卓 話 大間々博物館 学芸員 竹内寛様 |
| 4. 来訪者紹介 | 9. 点 鐘 |
| 5. 会長報告 | |

◆ピジター

みどり市大間々博物館(コドント館) 学芸員 竹内寛様

◆会長報告

片貝会長

- 本例会が今年最後の通常例会となりました。上半期のR財団と米山BOXを本日の例会で集計して年内中に送金致します。今月はR財団は1ドル82円で送金できますし、米山BOXは確定申告で寄付金控除が受けられます。ご協力をお願い致します。
- 火曜日に群大工学部外国人留学生との懇談会が桐生キャンパスで開催されました。当クラブからは会長幹事と国際奉仕委員会の松原委員長と天沼委員の4名で参加して参りました。マレーシアの留学生が特に多く、トータルで250名を超えているようです。工学部長のお話では、この5年間で留学生を2～3倍にして国際化を図りたいとの事でした。クラブとしてもそれに準じてサポートして行きたいと思えます。
- 前例会で次年度委員会編成の議論を行い、時間切れになってしまいました。1月の第3例会に予定されたいるクラブフォーラムをそれに充てて、皆様にお諮り戴く事に致しました。



◆幹事報告

近藤幹事

- ◇次例会は忘年家族会です。点鐘PM6:30、桐生プリオパレス
- ◇ハイライトよねやま130が配信されました。(各テーブルに配布)
- ◇福田ガバナー事務所のホームページのトピックスに当クラブの奉仕活動が紹介されています。
- ◇碓氷安中RCのホームページ開設されました。
- ◇例会変更のお知らせ
桐生中央RC 1/13 他5RC
- ◇クラブ会報が到着しています
桐生RC 12/13 桐生南RC 12/1 桐生中央RC 12/9
桐生赤城RC 11/25 足利RC 11/5, 11/12, 11/19, 11/26

◆食事メニュー

1390キロカロリー

木の子と豚肉の炒め、エビとホタテのフライ、お新香、白飯、長芋とキムチのサラダ、カニと玉子のスープ、フルーツ

◆委員会報告

石川委員長

□出席委員会

総数49名(免除者8名の内5名出席の為3名を除く)
 出席率対象者46名、出席率対象者出席人数37名
 欠席者9名(内前メイク4名) 出席率89.13%
 前々例会修正出席率89.13% (最終欠席者5名)

□ニコニコBOX委員会

新木委員長

竹内学芸員様、卓話ありがとうございます
 近藤君、稲森君、栗原君、松尾君、符波君、船戸君
 来週クリスマス家族会宜しくお祈いします 羽鳥君

□ロータリー財団委員会

乾委員長

竹内先生へ古代ロマンの話、楽しみです 江原君
 竹内様をお迎えして 符波君、松尾君、船戸君
 クリスマス家族会宜しくお祈いします 片貝君

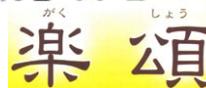
□米山奨学委員会

小林委員

コドント館の竹内様、卓話ありがとうございます
 金子君、家住君、稲森君、栗原君、
 松尾君、乾君、符波君、船戸君
 7月からの半年間ご協力ありがとうございました 片貝君

桐生市制施行90周年 記念事業 「天平楽府」新春公演 in 桐生

桐生織で復元した
衣装をまとっての



正倉院所蔵古代
楽器を復元し演奏

～シルクロードから正倉院に伝来した楽器の奏でる世界～

2011年1月23日(日)

14:30開場 15:00開演

桐生市立中央公民館市民ホール

お問い合わせ: 0277-22-9155



1300年の時空を
超えた演出

チケット購入に
ご協力を!

卓 話



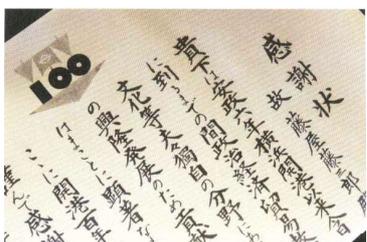
みどり市大間々博物館
(コノドント館)
学芸員
竹内 寛 様

「横浜浮世絵に見る
横浜開港の時代」
～上州の生糸売込商人
活躍の舞台～

昨年、横浜開港150年を記念して当館で『ニッポン開国！～横浜浮世絵が伝える異文化のまなざし～』という企画展を行いました。本日はその時のパンフレットに則ってお話したいと思います。

今や日本を代表する貿易港となった横浜ですが、それまで一漁村にすぎなかった村が発展するきっかけは、今から150年ほど前、安正6年(1859)の「横浜開港」でした。この開港を契機として活況を呈していたのが生糸貿易で、明治維新後の日本の近代化の原動力となったのが生糸輸出による外貨の獲得でした。ちょうど年末のNHKテレビでも人気を集めている司馬遼太郎原作の『坂の上の雲』の時代のことです。

江戸時代以来、生糸の産地だった上州からの輸出は特に盛んで、桐生・みどり地方では、生糸市で繁盛していた大間々から、3人の生糸商人が開港地の横浜に進出しています。それは巨大売込商として横浜経済界の三巨頭の一人にまで駆け上っていく「吉村屋(吉田)幸兵衛」をはじめ、大間々に子孫がいる「藤屋(藤生)藤三郎」、店先を描いた団扇絵が残る「不入屋(いらざや)治兵衛」らで、それぞれが横浜



横浜市から藤屋藤三郎に贈られた感謝状

の中心街に店舗を構えて外国商館への売り込みを行っていました。余談になりますが有名な中居屋重平衛は吉村屋と背中合わせに店を構えていました。当時、生糸は日本からの最大の輸出品で、その輸出総量の4割が上州産ですから、上州の養蚕農家や製糸業の人々が作り上げた生糸などをもとに、横浜の商人たちが獲得した外貨によって、維新後の日本が近代化をなしたといえます。

横浜の開港により、自分たちの近くで外国人が暮らしているという感覚は、江戸庶民をはじめ多くの日本人の関心を引かずにはおきませんでした。この時期に作られた「横浜浮世絵」や「横浜絵」などと呼ばれる錦絵(浮世絵)は、こうした横浜の開港により巻き起こった異文化(特に欧米諸国の風俗・習慣)への関心の高まりを背景に作られた多色刷りの版画です。



外国人男女の二人連れ
の浮世絵が多い

これは購買層の要求を敏感に察知した浮世絵の版元が、さまざまな外国情報を絵師たちに画かせることで一大出版ブームを創出した結果でした。バラエティに富んだ横浜浮世絵は、開国によって活気づく時代の雰囲気や、現代の我々に伝えてくれる格好の資料として、当時の日本人に与えた開国のインパクトの大きさを実感させてくれます。

横浜浮世絵の背景には、上州と横浜、そして欧米諸国とをつなぐ「シルクロード」の存在があります。こうした浮世絵を鑑賞するにつけ、幕末から明治へと向かう激動の時代を事業拡大の好機ととらえ、果敢にも外国貿易に取り組んだ上州出身の先人たちの行動力には、あらためて頼もしさを感じさせてくれます。

横浜鈍宅之図



最後に、「上州出身の生糸商人について」はコノドント館3F歴史展示室の「幕末から明治へ」というコーナーで紹介しております。どうぞお出掛けになって下さい。

RI第2840地区
第21回茶の湯研修会

2840地区主催、第21回茶の湯研修会が、師走の12月11日(土)、前橋市の料亭『松し満』を会場にして開催された。

地区茶の湯倶楽部代表世話人の森田パストガバナーの格調高いお話は、茶人として特に内容が光っていた。茶会テーマとなる季節、源氏物語、禅語、漢詩などに触れ、茶道の奥義について貴重な諸論を拝聴できた。

正客に福田一良ガバナーを迎え、席主の小山宗枝先生が軸や名器の茶会の会記について細々と解説され、感を深くした。

この日、小春日和の好天に恵まれ、年の瀬にもかかわらず忙中閑あり、参加者の心をどんなにか和らげてくれたことだろう。広瀬川のせせらぎにも想いを馳せ、茶事を十分に堪能して散会、各々帰路についた。



当クラブ参加者:桐生西RC茶の湯同好会4氏
星野幸男・井本上輔・金子福松・正田恵一各会員
文責:井本、写真提供:金子

《次例会予告》

1月7日(金) 新年初例会

点鐘 PM6:30、会場 桐生プリオパレス

12月31日(金)は公式休会です